様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２５ 日現在

機関番号：３２６８１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｋ０２６８３

研究課題名（和文）体育実践における創発的な学習活動の指導と評価の一体化

研究課題名（英文）Integration of teaching with the evaluation of emergent learning in physical education

研究代表者
森　敏生（Mori, Toshio）

武蔵野美術大学・造形学部・教授

研究者番号：３０２００３７２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：国内外の教科学習の改革動向のなかで学習パラダイムの転換が求められている。本研究では、「生態学的な複雑性」という方法論的視座に立脚し、体育実践における学習の本質を検討した。
我々は、体育実践における学習活動を、目標・課題としてのスポーツ活動と実際のスポーツ活動の矛盾の解決過程としてモデル化した。学習活動の「対象化」によって、「技術・戦術」、「ルール・規範」、「目標」といった学習対象が複雑なプロセスのなかで創出されることを示した。最後に体育実践の事例研究によって、協同的な学習活動において指導と一体となった形成的アセスメントが課題を対象化・共有化する創発的プロセスを確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
近年の欧米の教育分野では、複雑性という方法論的視座から学習や指導の理論化を図ろうとする新たな試みが始まっているが、わが国の体育科教育学研究はこうした研究動向に着目できていない。生態学的な複雑性という方法論的視座に立脚する本研究は、これまで理論化が不十分であった学習や指導・評価の本質的な側面に迫り、新たな学習観、指導観、評価観を創造する学術的意義をもつ。教師の指導は学習の新たな目標・課題の生成を促す触媒となり、評価はその生成を学習対象へと具体化し共有化するものとなる。体育実践は、教師と子どもが共同で価値的な内容を探求し創出する営みとなる。このことを理論化し検証したことに本研究の社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：A shift in learning paradigms is required in the context of national and international reform trends of subject learning. In this study, we examined the nature of learning in physical education practice from the methodological perspective of 'ecological complexity'.
We modelled learning activities in physical education practice as a process of resolving the contradiction between sporting activities as goals and tasks and actual sporting activities. We showed that the 'objectification' of learning activities creates learning objects such as ' techniques and tactics', 'rules and norms' and 'goals' in a complex process. Finally, through a case studies of physical education classes, we examined the emergent process by which formative assessment combined with instruction objectifies and shares tasks in collaborative learning activities.

研究分野：体育科教育学

キーワード：創発的な学習　指導と評価の一体化　生態学的な複雑性　形成的アセスメント　対象化と共有化　活動システム　矛盾の解決過程　異質協同の学習

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

（１）指導要領においては、「新しい時代に必要な資質・能力」が３つの柱で整理された。体育科（保健体育科）においては「体育の見方・考え方」が「資質・能力」育成のあり方を示している。これからの体育科（保健体育科）の役割は、複雑に変化する社会のなかで、生涯にわたる豊かなスポーツライフを持続的に創り出す総合的な実践力を育てることにある。

（２）わが国と同様のカリキュラムを巡る問題意識や改革動向は他の国々でも見受けられる。そこでは健康、生涯学習、スポーツ・アジェンダと結びついたより広い体育のビジョンをもった新たな学習のあり方が追求されている。新たな体育カリキュラムと学習は、社会や世界に開かれた適応的で創造的なものを志向し、協働的で問題解決的な状況・文脈での学習を重視している。

（３）体育実践における子どもの学習を捉える従来の視座や観点をこれまでのものとは違ったものに転換することが求められている。それは既定の学習内容（運動やスポーツ様態）の着実な習得を中心とした学習から、現実の生活や社会の問題にねざした課題を見出し、その課題の探求や解決のために、異質な他者と協働して学ぶべき内容を創出していくことを中心とした学習への転換である。

（４）体育では時々の授業実践において互いに違いをもった子どもたちが相互に創り出す状況から実質的な学習課題を導出することが必要で、そのことによって、子どもにとって意味ある学びが生み出される。学習活動の創発性は体育実践に特有かつ日常的な特徴である。しかし、その理論的な探求と実践的意義づけがされていない。これからの体育実践では、指導と評価の一体化による学習目標（到達目標）の達成機能だけではなく、学習活動の創発性に相応した新たな学習目標・課題を創出する機能についての究明が必要である。

２．研究の目的

指導と学習活動は実に複雑な営みであるが、それは目標指向的なマネジメント過程に還元されてきた。欧米の教育分野では複雑性という視座から学習や指導の理論化が図られている。体育の授業実践はまさに教師や子どもの活動によって変動する不確定で複雑な営みである。

本研究は、生態学的な複雑性という方法論的視座から体育実践における学習活動の創発性の実態に迫り、それに相応した指導と評価の一体的関係を明らかにすることを目的とする。

３．研究の方法

（１）第一の研究課題として、体育実践の学習のリアリティに迫るためには、生態学的な複雑性という方法論的視座が必要であることを示す。ここでは主として文献・資料研究によって、最近の認知・学習科学や学習論の成果を生態学的な複雑性の理論と結びつけて、体育実践のリアリティに迫る。

（２）第二の研究課題は、体育実践における学習活動の創発性の実態を明らかにすることである。そのための理論的仮説を導く視点を、＜教材と対峙する多様な個々の子どもたちの学び＞、＜生起してくる学びの共同的関係＞、＜学びの共同とともに創出され共有される新たな学習対象や学習手段＞、＜共同的創出から個々の学びへのフィードバック＞とする。その際、「活動システム」理論を理論的手がかりとする。

（３）第三の研究課題は、体育実践における学習活動の創発性に相応した目標創出的な評価がどのようなものかを示し、指導と評価の一体化が、目標達成と目標創出の相互補完的な機能で構成されていることを明らかにする。当初は教育現場との共同によるアクション・リサーチ（実践への介入と支援のプロジェクト）を想定していたが、コロナ禍が続いたため、体育授業の実践記録

と学習活動の詳細な資料の分析及び教師へのヒアリングにより第三の研究課題に迫った。

４．研究成果

（１）新たな学習理論の認識論・方法論

①学習への状況論的なアプローチ

学習への状況論的なアプローチでは、何をどう学ぶのかはある実際の活動の状況と不可分なものと考えられている。それゆえに、学校の授業で学んだこと、身につけた力は学校での学習の状況と不可分だということになる。しかし、状況論的アプローチでは、教師の教授とその役割を、子どもの学習と関連づけてうまく理解することができない。授業における学習の探究には、授業の社会システムの構成要因の可変的で変動可能な関係を考慮する必要がある。

②拡張的な学習と活動システム理論

活動システムモデルの特徴は,「既成文化の獲得や制度的な制約への適応」という学習論を超えて「新しい学習の概念」を提起するところにある。「未だここにないものを学ぶ」拡張の原動力となるのが, 活動システムにおける内的矛盾である。授業でいえば、教師が計画して用意した課題を解くことが対象にすえられても，何らかの矛盾が起こってうまくいかない問題が生じる。そしてその「未だここにないものを学ぶ」探究により課題を解くと同時に，共同体の活動そのものが拡張する。

③知識創造・構築としての学習

知識構築・創造としての学習概念には、クラスのコミュニティに所属する生徒たちがそれぞれ認識を豊かにする主体であり、コミュニティの知識を構築するプロセスに参加する正当な権限と共同で知識を構築する責任を担い、それぞれの多様な知識や経験とアイデアを権威のある知見も活用して関連づけて、より包括的で一貫したアイデアへと改善していく創発的な学習の考え方が表現されている。

④生態学的な複雑性という認識論

上記のような学習理論における構成主義的なアプローチのエッセンスは「複雑な学習理論」というタームで捉えられる。体育における学習についても、従来の種目別の内容習得と対比的に生態学的な複雑性の学習観への転換が必要である。生態学的な複雑性の認識論・方法論からのアプローチは、既定の学習内容の習得の確実性を高めることを志向する指導と評価の一体化論が捉え損ねている、創発的な学習を促進する指導と評価の関係を追求する可能性を開くものである。

（２）体育実践における学習活動の創発性

ここでは、体育実践における学習を、子どもたちのスポーツ活動システムの矛盾の解決過程と仮定し、この解決過程の複雑性と多面性に迫る理論的な枠組みを示し、こうした複雑で多面的な体育の学習活動を教師が指導的に介入しつつも子どもたち自らが組織化し発展的に拡張していく学習の創発性について考察した。

① 教材の系統と学習活動の対象化

単元の授業においては、教師の授業構想のもとで構成される学習内容およびそれを典型的に具現化した教材の系統に呼応しながら、子どもたちは、既に達成・獲得しているスポーツ活動システムを出発点として、授業でめざすスポーツ活動システムを発展的に組織化してくことになる(以下、スポーツ活動シス

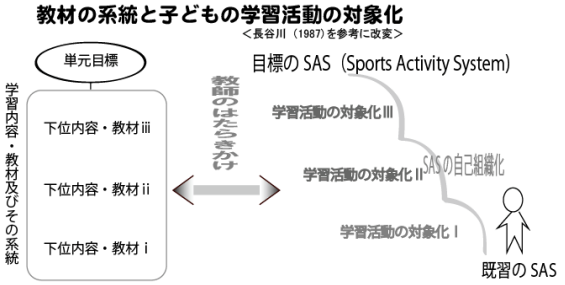

図１ 教材の系統と子どもの学習活動の対象化

テムを SAS=Sports Activity System と表す)。そこでは、系統化された下位の内容・教材を媒介に、その都度、自らの SAS を自己組織し、「学習活動の対象化」によって活動システムの矛盾を学習課題として定立して、その克服・解決を図りながら活動システムを拡張・発展させていく。

② 体育授業における SAS の矛盾とその対象化

体育授業における子どもの SAS は多面的な成分と多様で複雑な関係で成り立っている。SAS の成分は、「技術、手段・ツール、場の条件」(以下、「技術・手段」と表現する)、「主体」、「目標・対象（達成すべきこと)」、「集団（スポーツ集団)」、「ルール、規範」、「機能・役割」である。

a) SAS を媒介する「技術・手段」

学習の「目標・課題としての SAS」を成立させる「技術・手段」と、子どもたちの「実際の SAS」で活用可能な「技術・手段」との間の差異・逸脱（矛盾）をめぐって、体育授業の学習活動の対象、つまり解決すべき学習課題が設定される。「技術・手段」が学習活動の目標・対象になるのは、SAS の構成要因のなかでも「技術・手段」に関わる矛盾が SAS のあり様を主要に規定する中心的矛盾になっている場合である。

b) SAS を媒介する「ルール・規範」

「目標・課題としての SAS」を規制する「ルール・規範」は教材のもとになっているスポーツ素材の本質的なルールや広く共有され定着している規範を反映し、同時に教師の教材づくり・場づくりによって一定の内容に加工されている。「ルール・規範」に関わって SAS の矛盾がどのように顕在化してくるかは、SAS の他の要因との関係が影響する。「ルール・規範」を共有している集団の構成メンバーが、他者の異なる意見や考え方に対して寛容的・共感的かどうか、集団における構成メンバーの役割が対等なものかどうかなど、集団の共同性の特徴や、集団内での役割分担と協力的関係が影響する。「技術・手段」の達成水準も影響する。集団を構成する主体の技術レベルが高い場合には、「ルール・規範」の競技性がクローズアップされる傾向があり、逆に技術レベルが低い場合には、楽しさ、ルールのわかりやすさ、安全性などがクローズアップされる傾向にある。

C) SAS の「目標・対象」とその意味

体育授業において SAS の「目標・対象」やその「意味」をめぐる「矛盾」が顕在化するのは、獲得すべき SAS の価値や意味をめぐってその在り方がまるごと総体として問題になる場合である。例えば、「いったいみんなはどんな試合をめざすのか？」や「どのような競争にすれば、みんなが全力で楽しめるのか？」といった、活動全体に及ぶ学習テーマ（問題）がクローズアップされる場合である。そのため教師は、SAS の「目標・対象」やその意味を子どもたちそれぞれに問いかけ、交流させる。自分たちにとってよりよい新たな「目標・対象」を協同的・共同的に合意を図りながらつくり上げていくよう促す。

③ 陶冶的・訓育的側面としての SAS の矛盾の解決過程

以上のように、SAS の矛盾の解決過程は、活動システムの学習対象となりうる構成要因に応じて３つの相互に関連し合う位相（phase）から捉えることができる。第一は、「技術・手段」に関わる矛盾の顕在化・対象化と、その集団的・協同的

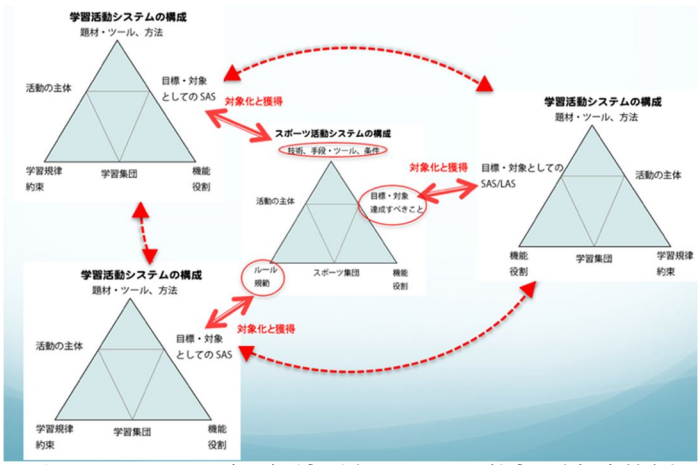

図２　SAS の矛盾の解決過程の３つの位相（陶冶的側

解決過程である。第二は、「ルール・規範」をめぐる矛盾の顕在化・対象化と、その集団的・協同的解決過程である。第三は、「目標・対象」をめぐる矛盾の顕在化・対象化と、その集団的・協同的解決過程である。

また、自分が所属する集団の共同体としての特徴、あるいは集団の役割分担、協業体制に関わって、活動の主体が直面する訓育的な課題が生起する。SAS の矛盾の顕在化・対象化とその解決過程には、集団における自己と他者との人格的な関係を模索し形成し調整し再形成し拡張していきながら、互いに自己形成・自己変革していく訓育的側面がともなっている。

（３）学習課題の対象化と共有化を促す指導と評価―小学校低学年のグループ学習の事例分析

授業構想のもとで「学習内容」を典型的に担った教材が構成されるが、教材には客観的に子どもたち学習者に求める学習課題が含まれている。こうした客観的に求められている学習課題と、実際の子どもたちの学習活動との間で、問題状況・問題事態が生起する。その問題事態の内容が、グループ（集団）においてメンバー間の協働と対話を通して対象化・共有化され、相互に意味づけられ、価値づけられて実際に対決すべき課題が創出する。クラスにおけるグループの学習活動の実際では、多様で異なる学習課題の対象化がなされており、それらの共有化を図る教師の指導と学習活動の評価の循環的一体化が重要になる。

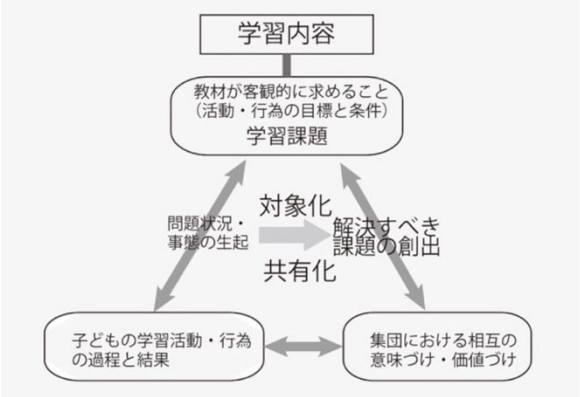

図 3 学習課題の対象化と共有化の概念モデル

（４）グループの協同学習の創出・変容を促す指導と評価の関係―小学校高学年のグループ学習の事例分析

グループによる主体的・協同的な学習の指導では、学習課題の系統化にそったグループノートの点検と学習観察によって学習課題の最適化を図る「学習のための評価」（assessment for leaning）と、感想文へのコメントのフィードバックにより学習者に自己評価のものさしを形成することを促す「学習としての評価」（assessment as learning）の機能を見出すことができた。さらに、学習課題の解決のなかで予想を超えた新たな問題を発見してより応用力・活用力の高い認識形成の可能性もあった。そこでは、子どもの新たな気づきを協同的に新たな戦術認識へと構築・創造することを促す「変容的評価（transformative assessment）」も見受けられた。

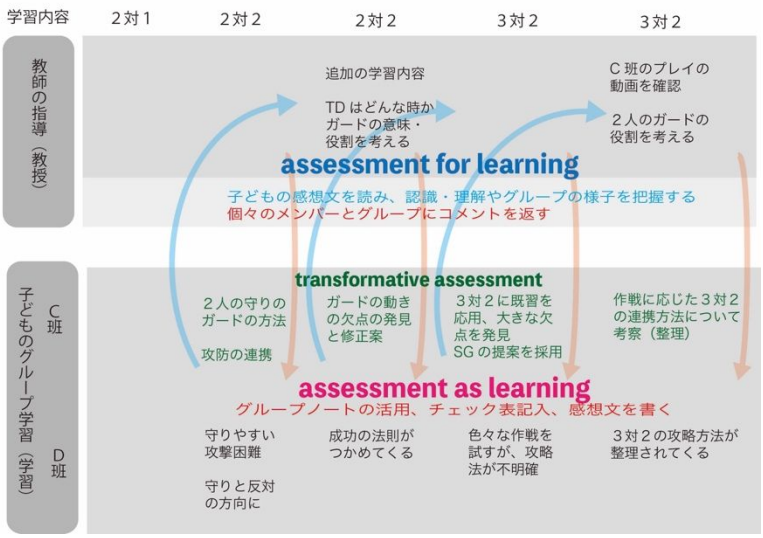

図 4 協同学習を創出する指導と評価の関係

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計35件（うち査読付論文　9件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 玉腰 和典	４．巻 1
２．論文標題 バレーボール教材における文化学習のための史的考察と実践プラン ： 攻防の相互関係に着目した通史的解釈をもとに Historical consideration and lesson plan of cultural learning in volleyball teaching materials : Based on historical interpretations	５．発行年 2022年
３．雑誌名 富山大学教育学部紀要 = Memoirs of the School of Education University of Toyama	６．最初と最後の頁 81～103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15099/00022103	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 玉腰和典・五代孝輔	４．巻 70巻12号
２．論文標題 体育における幼保小接続期カリキュラムの編成に向けて	５．発行年 2022年
３．雑誌名 体育科教育	６．最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 石田智巳・制野俊弘	４．巻 67
２．論文標題 丹下保夫の運動文化論構築過程における春田正治の影響 The influence of Masaharu Haruta on the process of constructing Yasuo Tange's theory of motor culture:	５．発行年 2022年
３．雑誌名 体育学研究 Taiikugaku kenkyu (Japan Journal of Physical Education, Health and Sport Sciences)	６．最初と最後の頁 845～857
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5432/jjpehss.22047	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 遠座未菜・丸山真司	４．巻 第１号
２．論文標題 カンボジアの幼児教育の歴史と幼稚園教員養成校の課題	５．発行年 2022年
３．雑誌名 中部学院大学・中部学院大学短期大学部 教職実践研究	６．最初と最後の頁 51-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 丸山真司	4．巻 第71号
2．論文標題 運動文化の学びを「ともに生きる」につなぐ体育実践の創造に向けて	5．発行年 2023年
3．雑誌名 愛知県立大学教育福祉学部論集	6．最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 森　敏生	4．巻 41(1)
2．論文標題 これからの学習集団としてのグループ学習	5．発行年 2022年
3．雑誌名 たのしい体育・スポーツ	6．最初と最後の頁 6-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 石田智巳	4．巻 41(1)
2．論文標題 「GIGAスクール構想」を検討する	5．発行年 2022年
3．雑誌名 たのしい体育・スポーツ	6．最初と最後の頁 60-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 玉腰和典・田中紗良	4．巻 16(1)
2．論文標題 地域スポーツの教材的価値－練馬区キャッチバレーボールに着目して－	5．発行年 2021年
3．雑誌名 富山大学人間発達科学部紀要	6．最初と最後の頁 9-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15099/00021428	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 玉腰和典・山本奈緒子	４．巻 16
２．論文標題 高校体育におけるヨガ教材の授業づくりに関する事例的検討－グループでの創作発表を方法とする実践を対象として－	５．発行年 2022年
３．雑誌名 富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要	６．最初と最後の頁 51-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 玉腰和典・近藤ひづる	４．巻 14
２．論文標題 小学校体育における戦術・技術認識の形成過程に関する事例研究－小学校５年生のホールディングバレーボール実践を対象にして－	５．発行年 2022年
３．雑誌名 子ども発達学論集	６．最初と最後の頁 81-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 玉腰和典・制野俊弘・岨賢二	４．巻 16(2)
２．論文標題 新型コロナウイルス感染症予防対策下における体育的行事の事例分析 ： 小学校における保健学習を発展させた子ども主体で創る運動会に着目して	５．発行年 2022年
３．雑誌名 富山大学人間発達科学部紀要	６．最初と最後の頁 45-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15099/00021557	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 玉腰和典	４．巻 69(10)
２．論文標題 体育科の特質に応じた「見方・考え方」を〈内側からの変革〉の契機とする	５．発行年 2021年
３．雑誌名 体育科教育	６．最初と最後の頁 36-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 森　敏生	4．巻 No.894
2．論文標題 オリパラ教育のあり方を再考する	5．発行年 2020年
3．雑誌名 教育	6．最初と最後の頁 39-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 丸山真司・伊藤嘉人・久我アレキサンデル・植田真帆	4．巻 第69号
2．論文標題 体育教師のカリキュラム作りに向かう「実践的認識」の形成－変容プロセスー小学校教師S氏のライフヒストリー・アプローチ	5．発行年 2021年
3．雑誌名 愛知県立大学教育福祉学部論集	6．最初と最後の頁 57-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 久我アレキサンデル・丸山真司	4．巻 第43巻第1号
2．論文標題 ペルーの学校体育の教科内容編成にみられる特徴および課題ーナショナル・カリキュラムにおける初等・中等体育カリキュラムに着目してー	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本教科教育学会誌	6．最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 ISHIDA Tomomi	4．巻 65
2．論文標題 “The learning stages of recognition”:	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Taiikugaku kenkyu (Japan Journal of Physical Education, Health and Sport Sciences)	6．最初と最後の頁 89～105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5432/jjpehss.19069	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 石田智巳	4．巻 第79号
2．論文標題 体育で大切にしたいこと－学びの事実に目を向ける	5．発行年 2021年
3．雑誌名 わかやまの子どもと教育	6．最初と最後の頁 3-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 久我アレキサンデル・玉腰和典・加納裕久	4．巻 第7号
2．論文標題 ボール投げゲームにおける「健康」領域と低学年体育の幼少接続カリキュラムの課題：シュートボール教材に着目して	5．発行年 2021年
3．雑誌名 名古屋経済大学　教育保育研究紀要	6．最初と最後の頁 13-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 森　敏生	4．巻 第35巻第2号
2．論文標題 体育科教育学の性格－体育科教育学と体育科教育法の関係に着目して－	5．発行年 2019年
3．雑誌名 体育科教育学研究	6．最初と最後の頁 61-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 森　敏生	4．巻 第39巻第1号
2．論文標題 オリンピックを鑑賞、批評する力	5．発行年 2020年
3．雑誌名 たのしい体育・スポーツ	6．最初と最後の頁 52-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 森　敏生	4．巻 Vol.36
2．論文標題 スポーツ・民主主義・平和と体育の授業論	5．発行年 2019年
3．雑誌名 運動文化研究	6．最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 石田智巳	4．巻 第65巻
2．論文標題 『認識の節』について：佐々木賢太郎と紀南作文教育研究会の議論	5．発行年 2020年
3．雑誌名 体育学研究	6．最初と最後の頁 89-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5432/jjpehss.19069	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 石田智巳	4．巻 68巻1号
2．論文標題 失敗事例を「話す・聞く/書く・読む」ことの意義―失敗事例から学ぶ	5．発行年 2020年
3．雑誌名 体育科教育	6．最初と最後の頁 16-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 石田智巳	4．巻 Vo.36
2．論文標題 戦後学校体育の原点とスポーツの捉え方 ―丹下保夫と佐々木賢太郎が見たスポーツの未来―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 運動文化研究	6．最初と最後の頁 14-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 久我アレキサンデル、丸山真司	４．巻 第43巻第1号
２．論文標題 ペルーの学校体育の教科内容編成にみられる特徴および課題―ナショナル・カリキュラムにおける初等・中等体育カリキュラムに着目して―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 日本教科教育学会誌	６．最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 玉腰和典	４．巻 第38巻第2号
２．論文標題 グループ学習で運動文化の民主主義（対話・合意・自治）を育む	５．発行年 2019年
３．雑誌名 たのしい体育・スポーツ	６．最初と最後の頁 34-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 久我アレキサンデル・玉腰和典・永沼祐介	４．巻 第53巻第3号
２．論文標題 中学校体育におけるカリキュラム開発に関する事例研究－四海久富による３年間のカリキュラムづくりに着目して－.	５．発行年 2020年
３．雑誌名 岐阜協立大学論集	６．最初と最後の頁 71-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 森　敏生	４．巻 37(2)
２．論文標題 学習指導要領と体育同志会のボールゲーム指導論	５．発行年 2018年
３．雑誌名 たのしい体育・スポーツ	６．最初と最後の頁 46-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 森　敏生	4．巻 66(7)
2．論文標題 エビデンス・ベースが体育にもたらす光と影	5．発行年 2018年
3．雑誌名 体育科教育	6．最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 丸山真司	4．巻 67(1)
2．論文標題 体育におけるルール学習と「ともに意味を問い直す」授業の創造	5．発行年 2019年
3．雑誌名 体育科教育	6．最初と最後の頁 12-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 石田智巳	4．巻 54(3)
2．論文標題 体育実践にナラティヴ・アプローチを読み取る－矢部英寿のバレーボール実践記録より－	5．発行年 2018年
3．雑誌名 立命館産業社会論集	6．最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 石田智巳	4．巻 66(4)
2．論文標題 思考力・判断力・表現力等は体育の中核になりうるか	5．発行年 2018年
3．雑誌名 体育科教育	6．最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 玉腰和典	4．巻 66(11)
2．論文標題 各発達段階に応じた「かかわり」の中身－小学校から中学校までのグループ学習の実践から－	5．発行年 2018年
3．雑誌名 体育科教育	6．最初と最後の頁 46-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 玉腰和典	4．巻 66(11)
2．論文標題 体育科教育における認識－戦術・技術認識の形成過程に着目して	5．発行年 2018年
3．雑誌名 体育科教育	6．最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 玉腰和典	4．巻 No.1215
2．論文標題 教科内容研究をベースにした「体育科の見方・考え方」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 学校教育	6．最初と最後の頁 14-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 森敏生
2．発表標題 体育科教育における学習評価論の課題－学習としての評価（assessment as learning)の理論的な展開に着目して－
3．学会等名 第27回日本体育科教育学会
4．発表年 2022年

１．発表者名 森敏生
２．発表標題 体育実践におけるグループ学習論を捉える認識論・方法論
３．学会等名 第42回日本スポーツ教育学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 佐伯聡史・玉腰和典・松田匠・土合真祐
２．発表標題 中学校体育における連鎖交互跳びの事例研究
３．学会等名 第42回日本スポーツ教育学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 森　敏生・丸山真司・石田智巳・玉腰和典
２．発表標題 体育におけるグループ学習の変容過程－「学習としての評価」を視点として－
３．学会等名 日本教科教育学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 玉腰和典
２．発表標題 体育科の見方・考え方」の特徴と課題（２）
３．学会等名 日本教科教育学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 森　敏生・丸山真司・石田智巳・玉腰和典
２．発表標題 体育授業における技術認識と集団関係の変容ーグループ学習の事例を手がかりにー
３．学会等名 第40回スポーツ教育学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 森 敏生、丸山真司、石田智巳、玉腰和典
２．発表標題 体育授業における学習課題の対象化と共有化－学習活動の創発性を視点として－
３．学会等名 第39回スポーツ教育学会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 森　敏生
２．発表標題 体育科教育学の性格―体育科教育学と体育科教育法の関係に着目してー
３．学会等名 日本体育学会第６９回大会 体育科教育専門分科会シンポジウム
４．発表年 2018年

１．発表者名 玉腰和典
２．発表標題 体育科の見方・考え方の特徴と課題
３．学会等名 日本教科教育学会第44回大会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計10件

1．著者名 学校体育研究同志会編	4．発行年 2022年
2．出版社 創文企画	5．総ページ数 230
3．書名 ボールゲームの授業	

1．著者名 佐伯聡史・玉腰和典編	4．発行年 2023年
2．出版社 富山大学出版会	5．総ページ数 192
3．書名 縄とび教材「連鎖交互跳び」の授業づくり	

1．著者名 青沼 裕之、森 敏生、北 徹朗	4．発行年 2022年
2．出版社 武蔵野美術大学出版局	5．総ページ数 224
3．書名 市民のための健康・スポーツ論	

1．著者名 森　敏生（日本体育科教育学会編）	4．発行年 2021年
2．出版社 大修館書店	5．総ページ数 148
3．書名 体育科教育学研究ハンドブック「体育科教育の目的と性格」担当	

１．著者名 丸山真司（日本体育科教育学会編）	４．発行年 2021年
２．出版社 大修館書店	５．総ページ数 148
３．書名 体育科教育学研究ハンドブック「教育課程・カリキュラム研究」担当	

１．著者名 石田智巳（日本体育科教育学会編）	４．発行年 2021年
２．出版社 大修館書店	５．総ページ数 148
３．書名 体育科教育学研究ハンドブック「理論研究とその方法」担当	

１．著者名 玉腰和典（神谷拓編）	４．発行年 2020年
２．出版社 ベースボール・マガジン社	５．総ページ数 328
３．書名 部活動学　子どもが主体のよりよいクラブをつくる24の視点（１０時間目「体育授業と運動部活動とをつなぐ」担当）	

１．著者名 玉腰和典（松永あけみ、水戸博道、渋谷恵編）	４．発行年 2020年
２．出版社 風間書房	５．総ページ数 362
３．書名 教育発達学の展開（「幼児期の遊び（健康）から体育の学びへ」担当）	

１．著者名 木原成一郎、大後戸一樹、久保研二、村井潤共編著、玉腰和典他４名	４．発行年 2019年
２．出版社 学術図書出版	５．総ページ数 208
３．書名 改訂版初等体育科教育の研究	

１．著者名 石田智巳、山口孝治編著	４．発行年 2018年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 216
３．書名 初等体育科教育	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	丸山　真司 (Maruyama Shinji) (10157414)	日本福祉大学・教育・心理学部・教授 (33918)	
研究分担者	玉腰　和典 (Tamakoshi Kazunori) (60797174)	富山大学・学術研究部教育学系・講師 (13201)	
研究分担者	石田　智巳 (Ishida Tomomi) (90314715)	立命館大学・産業社会学部・教授 (34315)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関